



平成19年3月期 第3四半期財務・業績の概況（連結）

平成19年1月31日

上場会社名 味の素株式会社

(コード番号：2802 東・大)

(URL <http://www.ajinomoto.co.jp/>)

代表者 役職名 取締役社長 氏名 山口 範雄

問合せ先責任者 役職名 財務部長 氏名 大野 弘道

TEL (03) 5250 - 8161

1. 四半期業績の概況の作成等に係る事項

- ① 会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 有
 1. 法人税等の計上方法：見積実効税率を適用
 2. 貸倒引当金の計上方法：一部簡便法を適用
- ② 最近連結会計年度からの会計処理方法の変更の有無 : 無
- ③ 連結及び持分法の適用範囲の異動の有無 : 有
 連結 (新規) 3社 (除外) 2社 持分法 (新規) 1社 (除外) 3社

2. 平成19年3月期第3四半期財務・業績の概況 (平成18年4月1日 ~ 平成18年12月31日)

(1) 経営成績 (連結) の進捗状況

(百万円未満切捨て)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期 (当期) 純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円
19年3月期第3四半期	880,699	50,688	50,863	28,505
18年3月期第3四半期	836,827	45,280	47,371	29,550
(参考) 18年3月期	1,106,807	60,322	61,448	34,912

	1株当たり四半期 (当期) 純利益	潜在株式調整後1株当たり 四半期 (当期) 純利益
	円 銭	円 銭
19年3月期第3四半期	44.04	—
18年3月期第3四半期	45.62	—
(参考) 18年3月期	53.64	—

(2) 財政状態 (連結) の変動状況

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
19年3月期第3四半期	1,058,035	599,016	52.7	861.19
18年3月期第3四半期	970,478	514,324	53.0	793.77
(参考) 18年3月期	997,405	528,762	53.0	815.84

3. 連結範囲及び持分法の適用に関する事項

連結子会社数 103社 持分法適用非連結子会社数 4社 持分法適用関連会社数 10社

【参考】平成19年3月期の連結業績予想 (平成18年4月1日 ~ 平成19年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円
通 期	1,180,000	71,500	69,000	35,500

(参考) 1株当たり予想当期純利益 (通期) 54円 84銭

※経営成績等の定性的情報については、2～3ページをご参照ください。

1. 経営成績（連結）の進捗状況に関する定性的情報

当第3四半期まで（平成18年4月1日～平成18年12月31日）の売上高は、前年同期を438億円上回り、8,806億円（前年同期比105.2%）となりました。利益面では、営業利益、経常利益は、それぞれ506億円（前年同期比111.9%）、508億円（前年同期比107.4%）となりました。四半期純利益は、285億円と10億円の減益（前年同期比96.5%）となりましたが、これは主に法人税等の計算に用いた見積実効税率（通期業績予想にも同率を適用）の当第3四半期と前年同期の差によるものです。

なお、平成19年3月期の通期の業績予想に関しては、平成18年11月10日に発表したものに変更はありません。

〈国内食品事業〉

国内食品事業の売上高は、前年同期を51億円上回る4,783億円（前年同期比101.1%）、営業利益は前年同期を39億円下回る221億円（前年同期比84.7%）となりました。弁当・惣菜、飲料の減収の影響があったものの、コーヒー類の貢献、ならびに㈱ギャバンおよびアモイ・フード・グループの冷凍食品事業を連結対象に加えたこと等により、売上高は前年同期をわずかに上回り、営業利益は、原材料価格の高騰や健康関連事業への先行投資、暖冬による売上げ減少の影響等により減益となりました。

家庭用調味料・加工食品につきましては、「和・洋・中のだし」製品群において、生鮮素材と連動した店頭販促型のキャンペーンを実施しました。「ほんだし」、「コンソメ」の売上げは前年同期をやや下回りましたが、「丸鶏がらスープ」は前年同期を上回り、「和・洋・中のだし」製品群全体としては、前年同期並みの売上げとなりました。スープ類は、「クノール カップスープ」等が記録的な暖冬の影響を強く受け、売上げは前年同期を下回りました。マヨネーズ類は、「ピュアセレクト サラリア」が好調に推移しました。

業務用調味料・加工食品につきましては、厳しい外食市場の影響を受け前年同期並みの売上げとなりました。蛋白質改質酵素製剤「アクティバ」は順調に売上げを伸ばし、食品加工業向け天然系調味料は堅調に推移しました。

甘味料・栄養食品につきましては、家庭用・外食産業向けの低カロリー甘味料は、「パルスweet」が順調に推移したこと等により、売上げが前年同期を上回りました。アミノ酸サプリメント「アミノバイタル」の売上げは、ゼリードリンクタイプが前年同期を下回ったこと等により、減収となりました。

冷凍食品につきましては、家庭用は、主力品の「ギョーザ」「やわらか若鶏から揚げ」「具だくさん五目炒飯」が好調に推移しましたが、下期からの市場低迷に伴い、全体では前年同期並みの売上げに留まりました。業務用は野菜加工品、豚肉加工品が新製品の寄与により大幅に前年同期を上回り、デザート類の貢献もあり、売上げは堅調に推移しました。

油脂につきましては、売上げが前年同期をわずかに下回りました。

コーヒー類につきましては、「Blendy」（ブレンディ）「MAXIM」（マキシム）等のインスタントコーヒーが順調に売上げを伸ばし、液体コーヒーおよびギフトも増収となりました。

飲料につきましては、「エビアン」は好調に推移しましたが、全体では夏場の販売不振が影響し、売上げが前年同期を下回りました。

チルド乳製品につきましては、「ダノンbio」を中心とするヨーグルト製品や、「プチダノン」や「ベビーダノン」の売上げがいずれも大幅に増加しました。

〈海外食品事業〉

海外食品事業の売上高は、前年同期を219億円上回る933億円（前年同期比130.8%）、営業利益は、前年同期を49億円上回る76億円（前年同期比284.4%）となりました。アジアや南米における風味調味料の大幅伸長、家庭用・外食市場向け「味の素」の堅調な推移に加え、為替の好影響もあり、大幅な増収・増益となりました。また、アモイ・フード・グループの調味料事業を連結対象としたことも増収に貢献しました。

調味料では、アジアにつきましては、タイやベトナムで家庭用風味調味料の売上げが大きく伸びたほか、家庭用・外食市場向け「味の素」も堅調に推移しました。米州につきましては、南米における家庭用風味調味料が大幅な増収となりました。欧州・アフリカにつきましては、西アフリカ諸国の家庭用「味の素」が売上げを伸ばしました。

加工食品では、アジアにおける即席麺事業が大幅に売上げを伸ばし、缶コーヒー「Birdy」（バーディ）も順調に推移しました。

〈アミノ酸事業〉

アミノ酸事業の売上高は、前年同期を131億円上回る2,005億円（前年同期比107.0%）、営業利益は、前年同期を8億円上回る120億円（前年同期比107.4%）となりました。飼料用アミノ酸、医薬中間体および化成品を中心に売上げは堅調に推移し、営業利益についても飼料用アミノ酸などで減益となったものの、加工用うま味調味料および化成品が大幅な増益となったことから、前年同期を上回りました。

加工用うま味調味料につきましては、食品加工業向け「味の素」は、国内、海外とも販売価格の引上げがあったものの、連結子会社減少の影響により売上げが前年同期を下回りました。核酸につきましては、海外の大手需要家向けを中心に販売数量を伸ばしたことから、売上げは前年同期を大幅に上回りました。

飼料用アミノ酸につきましては、リジン、販売数量、価格ともに上向き、売上げは前年同期を大きく上回りました。スレオニン、数量は堅調に伸長するも穀物環境悪化などの影響で販売価格が低下し、売上げは前年同期を大幅に下回りました。トリプトファン、売上げは、前年同期を大幅に上回りました。

医薬用・食品用アミノ酸につきましては、日本では、医薬用アミノ酸が薬価改定に伴う価格下落により、食品用アミノ酸も飲料向け需要の大幅縮小により、いずれも売上げが前年同期を大きく下回りました。海外では、欧州および北米を中心に医薬用アミノ酸が順調に推移しました。

加工用甘味料につきましては、販売数量を伸ばし、売上げが前年同期を上回りました。

医薬中間体につきましては、欧州での販売が寄与し、売上げが前年同期を大幅に上回りました。

化成品につきましては、化粧品原料の売上げは、北米向けが順調に推移したことにより前年同期を上回りました。アミノ酸化化粧品「ジーノ」およびコンピュータ用の層間絶縁フィルムの売上げは、いずれも前年同期を大幅に上回りました。

〈医薬事業〉

医薬事業の売上高は、前年同期を35億円上回る636億円（前年同期比105.9%）、営業利益は、前年同期を39億円上回る128億円（前年同期比144.0%）となりました。自社販売製品の売上げ、契約一時金を含む提携販売品の売上げが前年同期を上回り増収・増益となりました。

自社販売製品は、末梢静脈栄養液「ツインバル」や、肝疾患用分岐鎖アミノ酸製剤「リーバクト」の売上げが堅調に推移し、提携販売品では、糖尿病治療薬「ファスティック」等のナテグリニド類、カルシウム拮抗降圧剤「アテレック」、および骨粗鬆症治療剤「アクトネル」の売上げがいずれも前年同期を上回りました。

〈その他〉

その他の事業の売上高は、前年同期を1千万円上回る448億円（前年同期比100.0%）、営業利益は、前年同期を3億円下回る21億円（前年同期比87.7%）となりました。

2. 財政状態（連結）の変動状況に関する定性的情報

当第3四半期末の総資産は、前期末の9,974億円に対して606億円増加し1兆580億円となりました。これは主としてギフト品等の季節要因による売掛金の増加、設備投資の増加および円安による在外子会社の貸借対照表の円貨への換算額が増加したこと等によるものです。有利子負債残高は、設備投資等の資金を一部借入で賄ったことに加え、配当支払い等の季節要因もあり、前期末に比べて148億円増加し、1,604億円となりました。純資産については、表示の変更により少数株主持分が純資産の部に含まれたことや営業収益の増加等により、前期末に比べて702億円増加しました。純資産から少数株主持分を引いた自己資本は5,577億円となり、自己資本比率は52.7%となりました。

（注）業績予想の利用に関する注記事項

記載した予想数値は、本資料の発表日現在における将来の見通し、計画のもととなる前提、予測を含んで記載しております。実際の業績は、今後、様々な要因によって予想数値とは大きく異なる結果となる可能性があります。

四半期連結貸借対照表

(百万円未満切捨て)

区 分	平成18年3月期 (平成18年3月31日現在)		平成19年3月期 第3四半期 (平成18年12月31日現在)		増減	平成18年3月期 第3四半期 (平成17年12月31日現在)	
	金 額	構成比	金 額	構成比		金 額	構成比
資産の部		%		%			%
I 流動資産	425,991	42.7	473,050	44.7	47,058	440,288	45.4
現金及び預金	72,168		73,624		1,455	64,828	
受取手形及び売掛金	196,967		228,803		31,836	216,740	
有価証券	4,228		12		△4,216	7,075	
たな卸資産	108,324		119,830		11,505	108,659	
繰延税金資産	10,787		9,613		△1,173	10,391	
その他	34,640		42,298		7,657	34,127	
貸倒引当金	△1,125		△1,132		△6	△1,534	
II 固定資産	571,413	57.3	584,984	55.3	13,571	530,190	54.6
1. 有形固定資産	341,950	34.3	371,930	35.2	29,980	329,283	33.9
建物及び構築物	272,416		305,507		33,090	266,568	
機械装置及び運搬具	452,736		493,894		41,157	444,968	
その他	54,120		57,968		3,848	51,024	
減価償却累計額	△540,184		△572,087		△31,902	△531,158	
土地	55,611		58,034		2,423	58,966	
建設仮勘定	47,250		28,614		△18,636	38,913	
2. 無形固定資産	68,505	6.9	64,616	6.1	△3,888	42,396	4.4
のれん	43,194		39,668		△3,525	24,089	
その他	25,311		24,948		△362	18,306	
3. 投資その他の資産	160,957	16.1	148,437	14.0	△12,520	158,511	16.3
投資有価証券	146,151		132,036		△14,114	144,374	
長期貸付金	184		435		251	200	
繰延税金資産	6,616		6,456		△160	6,485	
その他	8,692		10,388		1,695	9,743	
貸倒引当金	△687		△879		△191	△2,293	
資産合計	997,405	100.0	1,058,035	100.0	60,630	970,478	100.0

(百万円未満切捨て)

区 分	平成18年3月期 (平成18年3月31日現在)		平成19年3月期 第3四半期 (平成18年12月31日現在)		増減	平成18年3月期 第3四半期 (平成17年12月31日現在)	
	金 額	構成比	金 額	構成比		金 額	構成比
負債の部		%		%			%
I 流動負債	237,840	23.8	271,846	25.7	34,005	244,558	25.2
支払手形及び買掛金	109,092		132,547		23,455	127,944	
短期借入金	24,851		37,751		12,900	29,689	
コマーシャルペーパー	10,000		—		△10,000	15,000	
1年以内返済予定長期借入金	410		436		25	434	
1年以内償還予定社債	—		15,000		15,000	—	
未払法人税等	7,274		12,253		4,979	8,905	
賞与引当金	3,897		1,824		△2,072	1,773	
役員賞与引当金	—		153		153	—	
その他	82,314		71,879		△10,435	60,811	
II 固定負債	198,157	19.9	187,172	17.7	△10,985	181,362	18.7
社債	85,000		70,000		△15,000	85,000	
長期借入金	25,382		37,270		11,887	8,439	
繰延税金負債	9,076		4,849		△4,226	4,803	
退職給付引当金	57,234		52,807		△4,426	59,271	
役員退職慰労引当金	1,607		1,887		280	1,474	
その他	19,856		20,356		500	22,373	
負債合計	435,997	43.7	459,018	43.4	23,020	425,921	43.9
少数株主持分							
少数株主持分	32,644	3.3	—	—	—	30,233	3.1
資本の部							
I 資本金	79,863	8.0	—	—	—	79,863	8.2
II 資本剰余金	111,579	11.2	—	—	—	111,579	11.5
III 利益剰余金	341,528	34.2	—	—	—	336,175	34.7
IV その他有価証券評価差額金	23,848	2.4	—	—	—	21,863	2.3
V 為替換算調整勘定	△25,547	△2.6	—	—	—	△32,702	△3.4
VI 自己株式	△2,510	△0.2	—	—	—	△2,454	△0.3
資本合計	528,762	53.0	—	—	—	514,324	53.0
負債、少数株主持分及び資本合計	997,405	100.0	—	—	—	970,478	100.0

(百万円未満切捨て)

区 分	平成18年3月期 (平成18年3月31日現在)		平成19年3月期 第3四半期 (平成18年12月31日現在)		増減	平成18年3月期 第3四半期 (平成17年12月31日現在)	
	金 額	構成比	金 額	構成比		金 額	構成比
純資産の部		%		%			%
I 株主資本	—		551,856	52.1	—	—	
1. 資本金	—		79,863	7.6	—	—	
2. 資本剰余金	—		111,580	10.5	—	—	
3. 利益剰余金	—		363,215	34.3	—	—	
4. 自己株式	—		△2,803	△0.3	—	—	
II 評価・換算差額等	—		5,926	0.6	—	—	
1. その他有価証券評価 差額金	—		16,370	1.6	—	—	
2. 繰延ヘッジ損益	—		126	0.0	—	—	
3. 為替換算調整勘定	—		△10,570	△1.0	—	—	
III 少数株主持分	—		41,233	3.9	—	—	
純資産合計	—		599,016	56.6	—	—	
負債及び純資産合計	—		1,058,035	100.0	—	—	

四半期連結損益計算書

(百万円未満切捨て)

区 分	平成18年3月期 第3四半期 (自平成17年4月1日 至平成17年12月31日)		平成19年3月期 第3四半期 (自平成18年4月1日 至平成18年12月31日)		増減	平成18年3月期 (自平成17年4月1日 至平成18年3月31日)	
	金 額	百分比	金 額	百分比		金 額	百分比
I 売上高	836,827	100.0	880,699	100.0	43,871	1,106,807	100.0
II 売上原価	605,438	72.3	632,569	71.8	27,131	795,007	71.8
売上総利益	231,389	27.7	248,129	28.2	16,740	311,799	28.2
III 販売費及び一般管理費	186,108	22.3	197,440	22.4	11,331	251,476	22.7
営業利益	45,280	5.4	50,688	5.8	5,408	60,322	5.5
IV 営業外収益	9,576	1.2	9,320	1.0	△255	10,064	0.9
受取利息	913		1,301		387	1,287	
受取配当金	735		660		△74	1,279	
持分法による投資利益	3,960		3,628		△331	3,703	
その他	3,967		3,729		△237	3,793	
V 営業外費用	7,485	0.9	9,145	1.0	1,659	8,938	0.8
支払利息	2,444		3,694		1,250	3,292	
その他	5,041		5,450		409	5,645	
経常利益	47,371	5.7	50,863	5.8	3,492	61,448	5.6
VI 特別利益	6,499	0.7	3,309	0.3	△3,190	6,981	0.6
固定資産売却益	4,229		198		△4,031	4,339	
投資有価証券売却益	1,506		2,406		900	1,634	
その他	763		703		△60	1,008	
VII 特別損失	4,307	0.5	3,694	0.4	△612	11,261	1.0
固定資産除却損	1,886		2,230		343	4,699	
その他	2,420		1,464		△955	6,561	
税金等調整前四半期(当期)純利益	49,563	5.9	50,478	5.7	914	57,169	5.2
法人税等	17,620	2.1	19,551	2.2	1,930	19,311	1.7
少数株主利益	2,392	0.3	2,421	0.3	28	2,945	0.3
四半期(当期)純利益	29,550	3.5	28,505	3.2	△1,045	34,912	3.2

事業の種類別セグメント情報

平成18年3月期第3四半期（自平成17年4月1日 至平成17年12月31日）

（百万円未満切捨て）

	国内食品	海外食品	アミノ酸	医 薬	その他	計	消去又は 全 社	連 結
売上高								
(1) 外部顧客に対する売上高	473,185	71,367	187,337	60,117	44,819	836,827	—	836,827
(2) セグメント間の内部売上高	2,085	1,332	17,527	79	41,397	62,423	(62,423)	—
計	475,270	72,700	204,865	60,197	86,217	899,250	(62,423)	836,827
営業費用	449,142	70,007	193,605	51,245	83,728	847,729	(56,181)	791,547
営業利益	26,127	2,692	11,259	8,951	2,489	51,521	(6,241)	45,280

（注1）事業区分は、社内カンパニー制における事業運営体制に基づいております。

（注2）各事業区分の主要製品

事業区分	主要製品
国内食品	「味の素」、「ほんだし」、「Cook Do」、スープ類、マヨネーズ類、「パルスイート」、弁当・惣菜、ベーカリー製品、「アミノバイタル」、冷凍食品、油脂、コーヒー類、飲料、チルド乳製品等
海外食品	「味の素」、風味調味料、即席麺、飲料等
アミノ酸	食品加工業向け「味の素」、核酸系調味料、飼料用アミノ酸、医薬用・食品用アミノ酸、医薬中間体、アスパルテーム、化成品等
医薬	医薬品、医療食品
その他	物流、各種サービス他

（注3）営業費用のうち消去又は全社の項目に含めた配賦不能営業費用の金額は7,072百万円であり、その主なものは、当社の管理部門に係る費用および一部の研究所費用です。

（注4）各事業区分に属する製品の変更

当連結会計年度において、当社は当社グループの新たな中長期経営計画に向けて、カンパニー制の再編を行いました。これに伴い、当社グループの事業内容の実態をより適切に表示するために各事業区分に属する製品を見直し、以下のとおり変更しました。

- ・「国内食品」に含めていた親会社輸出食品を「海外食品」に変更。
- ・「海外食品」に含めていた冷凍食品事業の一部を「国内食品」に変更。
- ・「海外食品」に含めていた加工用うま味調味料、海外「アミノバイタル」を「アミノ酸」に変更。
- ・「海外食品」に含めていた海外法人のその他事業の一部を「アミノ酸」に変更。
- ・「全社」に含めていた健康事業の事業化プロジェクトを、健康事業として立ち上げ「国内食品」に変更。

（注5）会計処理方法の変更

在外子会社等の収益及び費用は、従来、決算日の直物為替相場により円貨換算しておりましたが、当連結会計年度より、期中平均相場による円貨換算に変更しております。

この変更は、当社グループの生産、販売のいずれの面におきましても在外子会社等の重要性が増してきていることに加え、今後四半期財務情報の開示が進展していく中、決算期毎に直物為替相場に著しい変動が生じた場合でも、期間の損益をより適切に反映するために行ったものであります。

この変更により、従来の方法によった場合と比較して、売上高が「国内食品」で168百万円、「海外食品」で3,664百万円、「アミノ酸」で4,382百万円、「その他」で177百万円減少し、「消去又は全社」で105百万円増加しております。また、営業利益は「国内食品」で1百万円、「海外食品」で281百万円、「アミノ酸」で76百万円、「医薬」で0百万円、「その他」で18百万円減少し、「消去又は全社」で0百万円増加しております。

平成19年3月期第3四半期（自平成18年4月1日 至平成18年12月31日）

（百万円未満切捨て）

	国内食品	海外食品	アミノ酸	医 薬	その他	計	消去又は 全 社	連 結
売上高								
(1) 外部顧客に対する売上高	478,344	93,336	200,514	63,668	44,835	880,699	—	880,699
(2) セグメント間の内部売上高	2,126	1,739	14,973	100	45,015	63,956	(63,956)	—
計	480,471	95,075	215,487	63,769	89,851	944,655	(63,956)	880,699
営業費用	458,336	87,416	203,398	50,878	87,667	887,697	(57,686)	830,010
営業利益	22,134	7,658	12,089	12,891	2,184	56,958	(6,269)	50,688

（注1）事業区分は、社内カンパニー制における事業運営体制に基づいております。

（注2）各事業区分の主要製品

事業区分	主要製品
国内食品	「味の素」、「ほんだし」、「Cook Do」、スープ類、マヨネーズ類、「パルスweet」、弁当・惣菜、ベーカリー製品、「アミノバイタル」、冷凍食品、油脂、コーヒー類、飲料、チルド乳製品等
海外食品	「味の素」、風味調味料、即席麺、飲料等
アミノ酸	食品加工業向け「味の素」、核酸系調味料、飼料用アミノ酸、医薬用・食品用アミノ酸、医薬中間体、アスパルテーム、化成品等
医薬	医薬品、医療食品
その他	物流、各種サービス他

（注3）営業費用のうち消去又は全社の項目に含めた配賦不能営業費用の金額は6,823百万円であり、その主なものは、当社の管理部門に係る費用および一部の研究所費用です。